

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300082		
法人名	有限会社共生の里		
事業所名	グループホーム共生の里小城		
所在地	佐賀県小城市三日月町道辺838番地1		
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果市町村受理日	平成29年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成29年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく穏やかに過ごして頂ける様に決まり事をつくらず個々に合わせた対応にてのんびりと過ごして頂ける様に支援していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天山が見える緑多い場所に、二階建てのグループホーム「共生の里小城」がある。1階はグループホームで、二階がデイサービスとなっている。ホームの理念「昔ながらの生活をそのままに、趣のあるたずまいのまま、その人らしい生活を生き生きと生きる」を実践し、地域医療との連携のもと、看取り支援も実践されている。現在、二人の方が在宅復帰を実現されている。また、開設時から地域貢献に取り組み、地域協力のもと、傘を無料で利用できるように設置したり、ホーム長自ら地域に積極的に参加し、医療、福祉の発信源となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し業務に専念できる様にミーティングを通し伝達行っている。	ホーム内に理念を掲示している。入職時や業務中に理念について伝えている。ミーティングでは、振り返りの時間を作り、理念の共有を行い、実践に取り組みられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	部落行事への参加、月番なども回して頂き交流への参加に努めている。二階部分は地域の避難所にも利用して頂ける様に備蓄等も行っている。	清掃活動や地域の会合、行事に、ホーム長も地域活動に参加し、地域とのつながりができている。近所から野菜の差し入れや遊びに来られたり、散歩しながら挨拶を交わし、日頃より交流が出来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し認知症について少しでも理解して頂ける様に地域に方と話す機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議では、ホーム内・入居者の方の状況状態を説明し、より地域に密着した関係を築いている。	ホームや地域との情報交換が行われている。また、代表が講師になり、認知症について勉強会や情報提供が行われ、福祉情報の発信の場になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に一度北部包括支援センターのグループホーム部会に参加、他施設・地域包括支援センターとの意見交換や、困難事例の勉強会等も行っている。	ホームの状況提供や報告、相談を定期的に行っている。小城地区の部会を通して、行政との協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの中で拘束について説明しケアに取り組む様になっている。	現在、身体拘束対象者はいない。代表自ら身体拘束や人権について勉強会を開催し、常日頃から、職員教育が行われている。特に言葉による拘束に対しては、意識しながらケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	精神的虐待・拘束・特に尊厳については施設長からも厳しく指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングを通し施設長より随時話しが あっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い理解して頂いている。 又変更があった時には新たな重要事項説明書に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には必ず会話を取りその中でケアに対する要望など聞く様に心がけている。	家族の面会時に状況説明を行い、その会話の中で意向や希望を聞いている。出された意見については、職員で話し合っ て対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	些細な意見も聞けるような雰囲気づくりをし、必要に応じ施設長も交え個人面談も行い改善へと結びつける様に努力している。	職員の意見をが いいやすい環境作りが行われている。必要時は、ホーム長や事業所代表との個人面談も行われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の会話の中で仕事に対する姿勢・考えなどを聞きだし働きやすい職場環境が築ける様に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム困難事例などにも管理者だけではなく他職員にも呼びかけをして参加出来た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会をはじめ、管理者だけにこだわらず困難事例の勉強会に参加するなどして他施設との交流が図れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人さんの不安や希望に耳を傾け対応する事が出来るように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんの面会時には会話を取り、現状報告を交え不安や要望など聞き入れるよう積極的に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態変化を見極め、本人さんと家族さんも交えて今何が必要かを話し合い対応が遅れない様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人さんの状況に合わせて個別にて会話を取り、その人の思いを知る事で信頼関係がとれる様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の状態・状況に合わせて居室又はリビングで会話を取り信頼関係が築ける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブを兼ね馴染みの場所に行ける様に心がけている。	家族の協力で外食したり、馴染みの場所へドライブに行っている。友人、知人の面会もあり、馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で孤立されない様に言葉かけをし、リビングにて他入居者の方とソファーに腰掛けゆったりと過ごして頂けるような環境作りに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の方がホームを訪れて来られる関係性は現在も続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人さんのペースで想いや意向を大切にしてお過ごし頂ける様に支援している。	会話や仕草をみながら、入居者の意向や思いの把握を行っている。また、家族からの情報提供を参考にし、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書を基にして家族の方より細かな情報を得た馴染みの暮らしに近づける様に努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を把握し心身状態に合わせ対応する様努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族・ご本人さんの希望を元に介護者でどのように対応していくかを検討しながら介護計画書を作成している。	意向や希望を踏まえ、カンファレンスを行い、個別介護計画書を作成している。状態変化の時は、その都度柔軟に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化の記録は日々の日誌に特記として記録しミーティングで検討し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズに対しても家族とともに相談し柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や医療機関、地区の区長や民生委員、住民など交流を深め豊かな暮らしになる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の状態によりかかりつけの先生にも相談を取るよう努めている。家族さんの付き添いが困難な場合はホームでの受診を行っている。	医療受診については、協力医にお願いしている。24時間対応のため、看取りも対応している。他科受診については、ホームで付添支援をし、家族へ報告をしている。職員も記録により、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康観察を行い異常があればすぐに連絡を取り対応が遅れないようにし適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院とも連絡を取り合い情報を得ている。又定期的に面会を取ることで状態把握も出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族さん、本人さんにとって最適なケアが出来る様な取り組みは行っている。看取りも実績がある為依頼があれば対応も可能である。	入居時に看取りについて説明し、意向の確認を行い、状態に応じて、家族や医療機関と連携を図り、希望に添った支援をしている。また、看取りについての勉強会もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網は明確にし徹底しているが定期的な研修は行われていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年に2回、消防署にも1度は立ち会いを依頼している。	夜間想定で避難訓練を実施している。また、地域に向けてスピーカーが設置され、近所の方に向けつけてもらえるようにしている。地域の住民や消防団にも、協力依頼されているが、訓練に参加はこれからである。	今後も地域の協力要請を継続しながら、災害訓練にも、地域住民等参加できるように期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人としての人格を尊重し言葉かけや、言葉遣いに注意をはらっている。	入居者の尊厳を守った、言葉遣いや対応に注意している。また、書類は事務所で管理し、プライバシー保護にも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけや、余計な介護をし過ぎないように対応し、混乱を見定めながら感情表出が出来る様な環境作りには配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人さんのペースに合わせてゆっくり、穏やかに過ごして頂ける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪希望があればホームにて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の気分によりパンが食べたいと希望があればすぐに対応、又体調によりおかゆを希望されればすぐに対応できる様にしている。	家庭的な食事提供ができる業者に外注している。入居者の嚙下状態に合わせて、食事形態を柔軟に対応し、食事が楽しいものになっている。また、畑で採れた野菜を入居者と一緒に調理を行うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態のあわせ食事形態を変えたり、食事摂取少ない時には高カロリーゼリーを食べて頂いたり対応を取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕には声掛けに行い、出来ない方には介助にて対応をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツ使用の方も日中は布パンツにて対応したり、個々の状態に合わせてパット使用の検討を随時行っている。	排泄チェック表により排泄を把握し、個別に対応している。トイレやポータブルトイレを利用し、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取が出来る様に、ご飯にはファイバーを使用する。又水分が十分にとれる様に10時・15時にはお茶を、お風呂上りには牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かしており本人さんが入りたくない日などは日にちをずらすなどして無理に進めることの無い様になっている。	週2回、午後から入浴を予定している。希望に応じて入浴ができるよう準備もしている。入浴を拒否された人には、足浴を実施したり、浴槽に入ることができない人には、シャワー浴などで対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況に合わせて日中ベットに休息をして頂くような支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康管理シートに加え処方箋は誰もが見れる様にしており、変化見られたときにはその都度かかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別ごとのレクリエーションに取り入れ対応を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者個々の状態・状況に合わせて外出の支援を行っている。現在は天気の良い日など気分転換に車椅子にて近くの散歩なども行っている。	天気のよい日は屋外散歩を促し、外気浴に触れる機会を作っている。また、入居者の希望にそって、外食やドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ家族さんに相談の上希望に応じ所持できるように支援する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は自ら電話を使用できる入居者の方がおられない為電話の希望がある時には職員が対応し要件を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常にカーテンを全開し外の景色が見える様にしている。又温度差に配慮し耳障りにならない様な音楽を流し穏やかに過ごして頂けるような環境作りを心がけている。	空調や床暖房で、室温の管理が行われている。また、季節に合わせた創作物を飾り、掃除が行き届き、清潔感漂っている。大きな窓からは光が射し、景色をゆっくり眺めることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間には椅子やソファを多く置き、誰もが寛ぎやすい環境にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込める体制を取り落ち着いた生活ができるように配慮している。	必要な物品は、ホームが準備している。配置に関しては入居者、家族と話し合いながら行っている。入居者が落ち着いて過ごすことができるように、自由に物品の持ち込みも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ個人の能力に応じた環境作りを行い自立した生活が安全におくられるように工夫している。		